とあそべる場が数多く解放されて行くなら、生々とし、創造的で発展的なあそびを次々と発見し、人間として成長する大事なものをつかみとっていけるのではないかと思います。

子どもは、それでなくともすばらしい可能性を持っているのですから。

私たちは、次代をになう子どもの生活と権利を守るために、現実に起きている自然破壊や、社会の矛盾に視点をすえ、何をどうしていけば良いのか、真剣に考え行動していく必要性を痛切に感じます。

霞ケ浦の「水がめ化」と、桜川および霞ケ浦の水質汚濁とは切り離すことのできない重要な問題です。そこでこの問題に以前から精力的に取り組んでおられる、土浦市民の会会長、長須祥行氏に「水がめ化」について特別寄稿していただきました。

住民無視の「水ガメ」化

長須祥行

霞ケ浦の「水ガメ」化について、私たちは、いったいとれだけのことを知らされているだろうか。湖岸住民をおきざりにして「水ガメ」化だけが、どんどん進められている。じつは、「水ガメ」化に必要な湖岸堤のカサ上げ工事は、〃護岸工事〃の名のもとに、延長二〇〇キロのうち三分の二は終わってしまっているのである。さらにいえば、「水ガメ」化はすでに実施の段階なのである。常陸川の逆水門を閉鎖しているのが、なによりの証拠で